

## 令和4年度 園内研究まとめ

### 研究主題「共に遊びを楽しむ幼児を育む ～人との関わりを豊かにするための環境の工夫と教師の援助～」



江東区立ひばり幼稚園

#### 【主題設定の理由】

今年度、年中組は少人数での学級経営となっており、人との関わりにおいて、様々な刺激が受けにくいという課題がある。また、年長組は、教師だけを頼るのではなく、友達同士で教え合ったり、助け合ったりできる仲間関係の構築や、友達と一緒に試行錯誤しながら遊びを進めていく力を育むことが課題である。

以上のことから今年度は、「友達と一緒にやりたい遊びを存分に楽しんでほしい」「自分たちで考えたり、試したりしながら助け合いができる学級にしたい」という教師の願いから、幼児が様々な人と共に遊びを楽しむ経験を積み重ね、その中で様々な感情を味わったり、刺激を受けたりできるような環境の構成や教師の援助について探りたいと考え、本主題を設定した。

\*主題の「“共に” 遊びを楽しむ幼児を育む」の“共に”の対象は、「学級の友達」「異年齢の幼児」「教師などの大人」であり、様々な人と様々な場面で関わることを通して、人との関わりが豊かになっていくと考えた。

#### 【研究の方法】

- 生活や遊びの場面でのエピソード事例を持ち寄り、事例検討を行った。幼児の姿を読み取り、分析、考察し、人との関わりを豊かにするための援助の方法や環境の構成について協議した。
- 6月、10月に有明教育芸術短期大学 准教授の信太朋子先生（本園前園長）を講師としてお招きし、研究保育を実施した。研究保育や協議会を通して、教師の援助の方法や遊びの環境の構成についてご指導いただいた。

#### ☆事例検討について

- ① 遊びや生活の様子をエピソード事例として記録。

⇒どのような経験をしているか、何が育っているか、どのように友達（教師）と関わっていたかなどについて読み取っていった。



- ② エピソード事例を基に教師間で、様々な視点で幼児の姿を読み取り、援助の方法や環境の構成について協議。

⇒幼児の姿と教師が援助したことを全教師で見つめることで、幼児の育ちや今後の方針なども見えてきた。

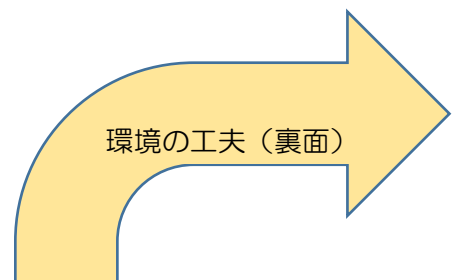


- ③ その後の保育で実践。

⇒事例検討で出されたことを踏まえた上で、幼児の実態に合わせて遊びの導入や環境構成を更に工夫するなどした。



環境の工夫（裏面）



## 【環境の工夫】

様々な人との関わりの機会となるように、10月下旬から“すみれの部屋”に両学年共通で使用する製作コーナーを設定した。様々な幼児が同じ場で製作をすることで、会話のきっかけになったり、互いの製作物に刺激を受けたりしている姿が見られた。また、両学年共通の遊びの場があることで、その場で一緒に遊んでいなくても、他学年の幼児同士が関わる姿を見る機会となり、間接的に様々な友達がいることを知る機会となった。

さらに、一緒にサッカーや鬼ごっこをするなど、学年同士で触れ合ったり、すみれの部屋において、担任が他学年の幼児と関わったりする機会が増えたことにより、自然と異年齢の幼児同士の関わりも見られるようになった。具体的な姿として、好きな遊びの中でも「入れて」と学年の違う友達がしている遊びに入っていく姿や、年長児が年中児に対して遊びのルールを優しく教える姿などがあげられた。



## 【研究の成果】

### 幼児側の成果

- ・両学年が自然と関わる機会が増え、学級の枠にとどまらず、様々な人と関わって遊ぶ楽しさを味わうことができた。
- ・自分たちで助け合ったり協力したりしながら、遊びや活動を進めようとするようになった。

### 教師側の成果

- ・異年齢の幼児が関わる機会をもてるよう、意識して教師間の連携をとることができ、そのことが幼児側の成果にある育ちにつながった。
- ・事例検討では、様々な角度からの意見を聞いたり、話し合いの中で考えを深めたりする時間となり、教師自身の幼児理解が深まり、保育スキルの向上につながった。

## 【今後の課題】

〇次年度も異年齢の幼児が関わる機会をもてるよう、教師間の連携をとりながら意図的に環境を工夫するなどして、引き続き研究を継続していきたい。

